

プログラムの概要

放射線診断学は、CTやMRIを中心とした画像診断、インターベンショナルラジオロジー(= IVR)、核医学の3部門で構成されています。

当科での研修の目的は、臨床現場で要求される放射線診断学の基礎を系統的に身に付けることです。

卒後臨床研修期間に、放射線診断学に携わり、CT・MRI・インターベンショナルラジオロジー(IVR)・核医学の基礎的知識と基本技術を習得することを目標とします。

アピールポイント

- ① 経験豊富な放射線診断専門医の指導を直接受けながら、臨床に役立つ画像診断を身につけることができます。
- ② MRIに関する基礎から応用まで系統的に学ぶことができます。
- ③ MRIの新技術、腹部画像診断、脳神経領域の画像診断、胸部画像診断、MRエラストグラフィ(非侵襲的に臓器の硬さを診断)など、多数の世界最先端の研究に関わりながら論文作成や学位取得が可能です。
- ④ 大学病院内の3テスラMRI・320列 Area Detector CT、Super high-resolution CTなど高性能の診断装置を駆使した放射線診療を基礎から学ぶことができます。
- ⑤ IVR部門では、数多くの診療実績を誇る経カテーテル的肝動脈化学塞栓療法や副腎静脈サンプリング、様々な部位の出血の止血術、胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性静脈塞栓術、CTガイド下生検、ドレナージ術などの日本をリードする技術、子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓療法や腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの最先端の治療法など、IVRに関する手技を多岐にわたり学ぶことができます。
- ⑥ 研修医の希望に応じた、きめ細かい研修プログラムを作成します。
- ⑦ 毎週水曜日の昼に行われるクリニカルケースレビューでは、様々な角度から画像診断に関する知識を得ることができます。
*現在休止中です。

具体的な研修内容

全身すべての領域における画像診断学の基礎を身に付け、上級医の指導のもと画像診断を通じて患者の病態を把握できるようになることを目標とします。

- ① 各検査法や画像診断における基礎的知識を習得する。
- ② 各検査に実際に携わり、疾患や検査目的に合わせた検査指示(検査技術やプロトコル作成)や処置(造影手技やIVR手技など)を上級医とともに行う。
- ③ 画像上の異常所見や問題点を抽出・解析し、上級医の指導のもとで画像診断レポートを作成する。
- ④ 各カンファレンスや勉強会において積極的にプレゼンテーションを行う。
- ⑤ 当科で行っている研修医向けのミニレクチャーや勉強会に参加し、系統的に放射線医学を学ぶ。



業界最高スペックの3テスラMRI装置



320列 Area Detector CT